

時事新報 一年三百六十五日 一日休刊也 其代價選 送料廣告料へ左ノ如シ

時事新報 時事新報廣告料前金

Table with 2 columns: 行 (Number of lines) and 日限 (Deadline). Includes rates for 1-10 lines, 11-20 lines, etc.

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り 時事新報配達のため此場合には新報代價一箇月 前金八割にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵 便紙の代價を受く可し

政治家と實業家

立憲政治の國に於て政府に政を執り國會に政を論ずる 者は世の所謂政治家にして實業家以下世間一般の人々 は政治家の所爲に目を配りて傍より其進退動作の巧拙 を評するもあれども自から政治社會に入りて其政を 執るものに非ず之を論へば政治家は後者の如く一般人 は見物人の如し其口跡は甚だ妙なり此所作は穩ならず 彼れは多くの人氣に投じて是れは時勢後れなりなど 政治の舞臺に芝居を業とし身を以て之に從事する政治 家の言行を品評して思ひ／＼に之を最貴し譽譽榮辱の 聲中に各々その技倆を顯はさしむるは即ち見物人の役 目にして其之を見物するの際には所謂芝居心を養ふて 役者の巧拙を見分くるに十分の眼力をもつるも最も 大切ならんや雖ども左ればとて身、役者に非ざるもの が見物より舞臺に出で、自から踊るも亦あらば政 治舞臺は總踊りて爲りて其混雜名狀す可らず劇場治安 の爲めに謀りて決して美辭に非ざる可し左れば彼の實 業家以下世間一般の人々は所謂政治思想を有して夫れ 國會議員を撰み或は當局者の舉動を見て傍より之 を品評するも用要されども身、政治家あらざれば手 づから政治の事を執りて之を職業と爲す可らず政治上 の事に就き見物批評人たるの義務を盡せば退て其本業 に返り其私利の爲め其社會の公の爲め専ら盡力す 可き筈にして實業社會の人々が長く政治熱に浮かされ 自己の社會を離れて其發達を謀るも忘れ去て却て 他の政治舞臺に踊らんとするが如き所謂後者と見物人 とを偶向したる者にして我輩の竊に感服せざる所あり 今や衆議院議員の撰擧も終り實業家以下世間一般の人 々が立憲政治國の人民として政治上に對するの關係に 先づ一落段を附けたるの姿をれば一般政治の事に就て は之を其代議士に依託して自身は専ら本業に復し更に 其社會の事に盡力するも實に今日の急務なる可し蓋 し社會の諸制度は互に相聯絡する者にして今その一部 分を離れて之をばせば全部一齊に釣合を保ちて其に變 更の度を進めざる可らず今日本國にて立憲制度を設 けし國會を立法體として國の政治を評定せんとすれば 商工、學問、宗教等政治以外の社會にても亦その組織を 同うして方向を一にし、運轉を共にし互に相顧應せざる 可らず若し然らず社會の諸制度中に就き其頭部とも 稱す可き政治の一部分だけと變更して其他は舊來依然 なるを以て山の羊が馴れ馴れしく變じて首尾その連綿 たるを以て一線、其結合を失ふて團體の自給 たるを以て六團體の可きなり即ち立憲政治國 人にして其社會を離れて其精神をして彼の立憲政

治に過せしむる者爲し一方の政治上に國會ありて國 の衆知議を一處に集め其衆知議を觸れ合せ又た之を引 き較べて其最良なる者を選み之を衆人の方向として其 働を勉むる者あれば實業上も亦夫れ／＼の會合法を 設けて政治上の國會と相對峙する程の實力を養ひ實業 上の法律規則其他萬般の利害に就ては自から之を評決 して意望の在る所を示し政治家に向ては唯その制法の 手續を依頼するまでに止まり他社會人の理窟に因りて 實業社會を棄さしめざるや、各自獨立の覺悟なき可 ならず凡そ實業社會の事は至て複雜したる者にして其 一進一退は人の財産權にも關係して利害重大あるのみあ らず此社會の人々は多年の慣習習俗に因り實地圓滑に 處世する者にして其中の甘辛便不便は他社會人に先ち て之を感知する筈にして除却導利の點に就ても亦その 急所を審かにするも勿論なるが故に西洋各國實業を 重んずる政府にては實業上の法律規則その他萬般の處 分に就き利害の關係大なる者は事々之を實業家に諮り 其意望を敬重して獨斷專定に涉らざるが如し左れば實 業家の方にては彼の商法會議所を以て實際その社會を 代表するの集合體と爲し此集合體の個々を集めて之を 一處に會すれば名實共に實業上の國會と爲りて其論議 評決する所は全國商工業家の意見を表す者として 見るもを得べし即ち彼の政治家が此等の意見に重き を置きて事毎に之と相照し實業社會と政治社會と相對 して相助け相長し以て互に其成功を期するものゝ如し 然るに我日本國にては個々の商法會議所が無權方不整 頓なるのみならず此個々を聯合して全國の商工の氣 脈を通ずるの趣向なきが故に凡そ商工業上の立法に就 ては商工自から個々に照して其意望の所在を示し此意 望の集りたるものが政府の手を経て始めて條例規則と 爲らざる可らざる筈あるに政治家塵上の議論を以て編 々之を獨斷し又編々之を施行し實際その社會の迷 惑を來すも毎度その例に乏しからず現にブルス條 例が既に發布したる儘にして若輩の實施を延期し又 彼の商法實施に關して近來世上に延誤説あるが如き亦 以て其一斑を見る可きなり左れば實業家の方にては差 向き其意望を代表するの仕組を設け政治家をして自然 その意望を敬重せしめ實業社會の事に關して傍若無人 に立ち働くの餘り往々事を誤りて雙方共に迷惑するが 如き弊害あからしめんと今日實業有志者が其焦眉の急 務として専心講究す可きものならんや我輩の敢て信す る所あり (未完)

雜報

○辭職に非ず 昨十七日白米商組合事務所より左の如 本日新聞に米商仲買人引致餘閑と題する項中白米商 組合役員を退きたる清水平彦と御持職有之儀へ共同人 義は偽造事件に付組合臨時會の決議を以て役員退職を 命じたるものにして自ら辭職をなしたるものにあらず 御序を以て正誤後下度候也

○北海道開拓策 黒田伯が常に北海道の盛衰に關心し 其利害を感ずるの深きは故國を思ふの情よりも尙ほ一 層親切なるを見るべし伯の一身は其職に關するも否 とを問はず何時も同道の開拓策を講じて忘らざれば廣 く讀者の眼をも惹いて更に之を當局者に移すなど一志 を注ぐも終端一の如し故に同道の官吏若くは有志者 諸氏にて出對する者あれば必ず先づ黒田伯を訪ふて其 現時の實況を尋ね且つ其意見と叩くを常とし其内地 人にして同道の開拓に専し爲す處あらんとする者は

先づ同伯に就て其目的を曉し又其意見を聞かんことを 欲する様子にて常に伯を中心とし運轉するものゝ如し 現に此頃のみならず北海道人が偶々出京の序を以て黒 田伯を三田の邸に訪ひ例の如く同道に關する長物語を 終へ更に其開拓策に就て意見を聞きたるに伯曰く北海 道今日の盛を見るものは他なし唯海産の收穫に由るの み然れども今や既に海産上の收益は充分ならざるに至 り是より續て此地に起るものは鐵業と農作となり昨年 以來は石炭の採出も増加し更に室蘭に達する處の鐵道 も進んで着手するもならんが従て其線路の近傍は土地 の開墾益々盛あるを見るべし左は去りながら北海道の 地質上米穀の作に適せず麥若くは甘藷の類は最も適當 なりと思はる故に麥及甘藷の收穫は今より年々歳を増 加する事疑ふべくもあらざるあり然る上は現住の人民 は茲に一の覺悟なるべからず其は他亦し全道舉て米 穀を食せざるもに足るも是なり日本人民は古來米 食に慣慣れて米にあらざれば生活の出来ぬ迄に厭ずる 程なれども之に代ゆるに麵包を以てし暫時の間に麵包 に慣れば之も亦好物たるに至り遂に平日の食物は麥 の原料を使用するもよく爲るも難からざるべし若し今 日の如く高價の米穀を遠く内地に仰ぐが如き様にては 土地に當る大に増加するも出來ず又同道の開拓も 從て大に擡取るを得ざるならん云々なりしと

○カワード氏の招宴 千八百九十三年(明治二十六年) 米國シカゴ府に於て開く萬國大博覽會に付代理委員と して先頭渡來したるガスタマス カワード氏は一昨十 六日夕刻より芝紅葉館に府下の重なる新聞記者を招 待せしが來會者十餘人にして酒酣なる頃氏先づ招待 の趣意を述べ次に毎日新聞記者嶋田三郎氏の謝辭あり 續いて横濱ガゼット新聞記者ナツタール氏の演説あり 主客歡を盡くして九時半頃散會せしが當夜の踊の内に 十人許の少女各國の旗を持ち張張の地球を廻りながら 唱歌せしを始め諸口に米國シカゴ大博覽會と金字にて 見せたる赤と流石主人の注意と見えて最と面白かりき

月曜漫筆 英國國家風記 准亭居士 第四回貴婦人を訪ふて 交際社會の事情を叩く 西洋諸國にては日曜日人に人を訪はぬが常なり特に宗教 熱心家は朝夕寺院の參詣の外、家族相親睦してピヤノ オルガンに諧美歌を奏し心靜に其日を送るの習なれ ば平常交際親しき人が時に相昔問して午後の喫茶を共 にするの外、別に其相親睦を破るの人は凡そ西洋の家 内にては家に因りて多少相親睦の暇はあれども中通り の家にては云へば日曜外の一週六日は朝の八時に朝飯を 済まし午後一時に午飯して凡そ五時頃に茶を喫し夕 刻七時前後に至て彼のナンナアと稱する一日中第一番 の御馳走に着くと云ふ然るに日曜日の朝飯は常より凡 そ一時間後れて食事の腹に落ち着きたる頃ソッソッ寺 院參詣に出掛け歸宅後午後一時半若くは二時の間に於 てナンナーの御馳走を午飯に繰上げ午後四時過に茶を 喫して朝の參詣を欠きたる者は是れより寺参りの途に 上り午後九時頃にサツパアとてサツパリとした食事を 爲す尤も中以下經濟向きの家内は平常午飯にナンナア を喫するもあれども是れはナンナアを繰り上げて 午後より庭厨に炭火を用ひざるの趣向にて西洋人は之 を好まず日中勉強して夕新家に歸りたる處にて御馳走

を受けんとする 彼の下宿屋屋主 ナアを一攫奪引 題として扱て日 ども英國にて彼 社交の手續さ人 して一週六日は 日丈が此開房を 因りて却て此日 きなき客と稱る もにて日曜の 際上の禮には昔 斯くぞ知りたる 兼ねて貰ひ受ら 二時下りに詩人 車場に至り倫敦 の停車場カマー 云へる小馬車 客待ちする馬車 車は甚だ稀なり の背後に在り此 して車も輕く 水道石道の外は 是至て劍呑の車 上一英里毎に 行く手を示して 一／＼と流石 頭は是れがホー せに車を下りて として月口の 草花を裁る附 車の留りたるに 居士の空子を 戸口に進みん 服の取次が 出で いかと思ふ程 込みたるは客官 どの紹介状 夫人と申す方 いかと思はれ として愛嬌多 華盛頓へ参つ には、眼に したらうオヤ あり居ますナ 々以て交際社會 見えたりける など云へる言 を押して出 見受けられ色 クン)のノ なが如く常に は似もやらず みの室中に には變化せんと 供の時は雙の ども此の金髪 了)かの赤み 者の鑑定、 髪のマ、

Vertical text on the far left margin, likely a list of advertisements or notices.